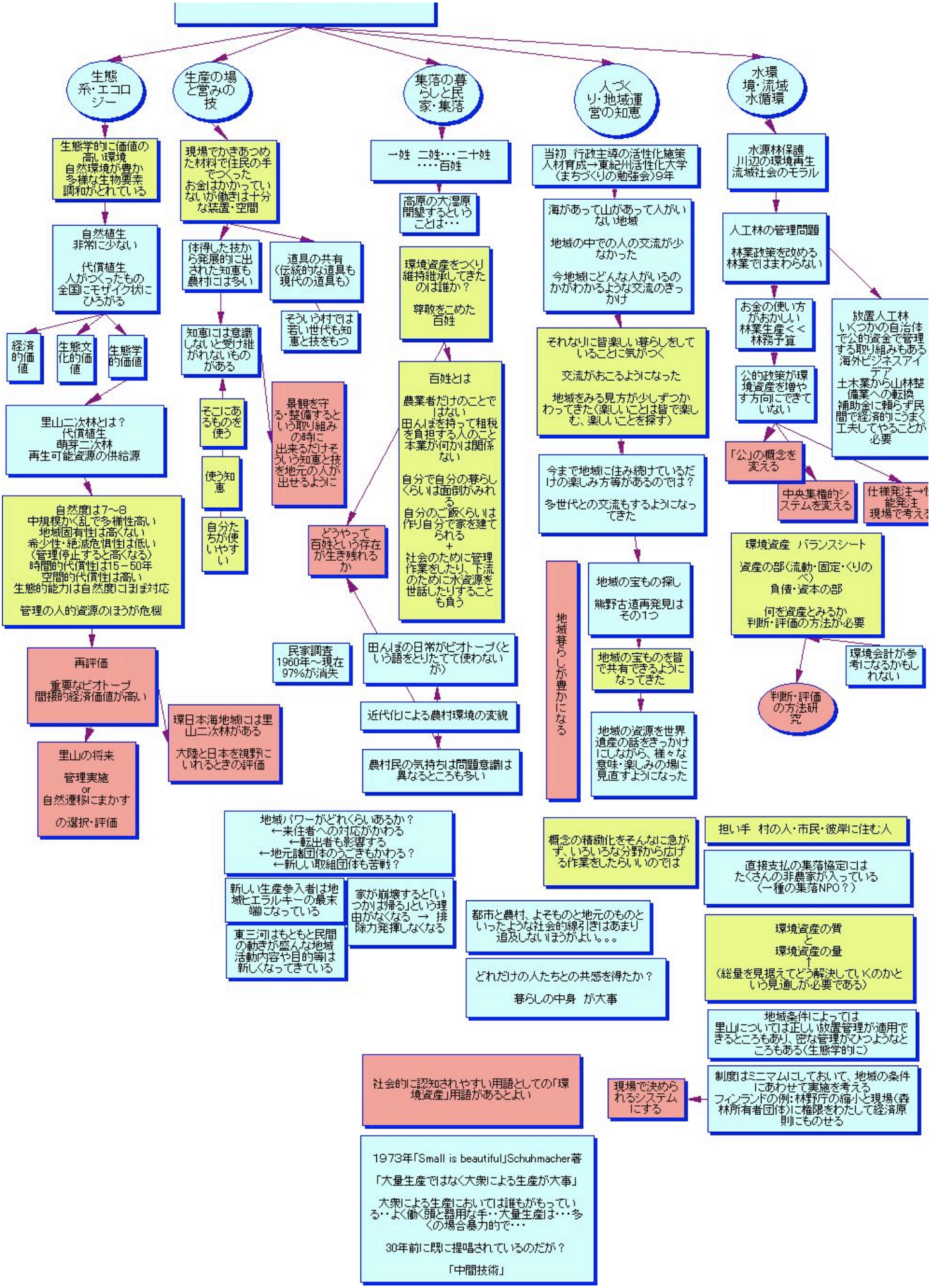
生態系・エコロジー
生産の場と営みの技
集落の暮らしと民家・集落
人づくり・地域運営の知恵
水環境・流域水循環
生態学的に価値の高い環境
自然環境が豊か
多様な生物要素
調和がとれている
自然植生
非常に少ない
代償植生
人がつくったもの
全国にモザイク状にひろがる
経済的価値
生態文化的価値
生態学的価値
里山二次林とは？
代償植生
萌芽二次林
再生可能資源の供給源
自然度は7～8
中規模かく乱で多様性高い
地域固有性は高くない
希少性・絶滅危惧性は低い
〈管理停止すると高くなる〉
時間的代償性は15－50年
空間的代償性は高い
生態的能力は自然度にほぼ対応
管理の人的資源のほうが危機
再評価
重要なビオトープ
間接的経済価値が高い
里山の将来
管理実施
or
自然遷移にまかす
の選択・評価
環日本海地域には里山二次林がある
大陸と日本を視野にいれるときの評価
現場でかきあつめた材料で住民の手でつくった
お金はかかっていないが働きは十分な装置・空間
体得した技から発展的に出された知恵も農村には多い
道具の共有
（伝統的な道具も現代の道具も）
そういう村では若い世代も知恵と技をもつ
知恵には意識しないと受け継がれないものがある
そこにあるものを使う
使う知恵
自分たちが使いやすい
景観を守る・整備するという取り組みの時に
出来るだけそういう知恵と技を地元の人が出せるように
一姓　二姓・・・二十姓
・・・・百姓
高原の大湿原
開墾するということは・・・
環境資産をつくり
維持継承してきたのは誰か？
尊敬をこめた
百姓
百姓とは
農業者だけのことではない
田んぼを持って租税を負担する人のこと
本業が何かは関係ない
自分で自分の暮らしくらいは面倒がみれる
自分のご飯くらいは作り自分で家を建てられる
＋
社会のために管理作業をしたり、下流のために水資源を世話したりすることも負う
どうやって
百姓という存在
が生き残れる
か
民家調査
1960年～現在
97%が消失
田んぼの日常がビオトープ（という語をとりたてて使わないが）
近代化による農村環境の変貌
農村民の気持ちは問題意識は異なるところも多い
当初　行政主導の活性化施策
人材育成→東紀州活性化大学
（まちづくりの勉強会）9年
海があって山があって人がいない地域
地域の中での人の交流が少なかった
今地域にどんな人がいるのかがわかるような交流のきっかけ
それなりに皆楽しい暮らしをしていることに気がつく
交流がおこるようになった
地域をみる見方が少しずつかわってきた（楽しいことは皆で楽しむ、楽しいことを探す）
今まで地域に住み続けているだけの楽しみ方等があるのでは？
多世代との交流もするようになってきた
地域暮らしが豊かになる
地域の宝もの探し
熊野古道再発見はその1つ
地域の宝ものを皆で共有できるようになってきた
地域の資源を世界遺産の話をきっかけにしながら、様々な意味・楽しみの場に見直すようになった
水源林保護
川辺の環境再生
流域社会のモラル
人工林の管理問題
林業政策を改める
林業ではまわらない
お金の使い方がおかしい
林業生産＜＜林務予算
公的政策が環境資産を増やす方向にできていない
「公」の概念を変える
中央集権的システムを変える
仕様発注→性能発注
現場で考える
放置人工林
いくつかの自治体で公的資金で管理する取り組みもある
海外ビジネスアイデア
土木業から山林整備業への転換
補助金に頼らず民間で経済的にうまく工夫してやることが必要
環境資産　バランスシート
資産の部（流動・固定・くりのべ）
負債・資本の部
何を資産とみるか
判断・評価の方法が必要
環境会計が参考になるかもしれない
判断・評価の方法研究
地域パワーがどれくらいあるか？
←来住者への対応がかわる
←転出者も影響する
←地元諸団体のうごきもかわる？
←新しい取組団体も苦戦？
新しい生産参入者は地域ヒエラルキーの最末端になっている
家が崩壊すると「いつかは帰る」という理由がなくなる　→　排除力発揮しなくなる
東三河はもともと民間の動きが盛んな地域
活動内容や目的等は新しくなってきている
概念の精緻化をそんなに急がず、いろいろな分野から広げる作業をしたらいいのでは
担い手　村の人・市民・彼岸に住む人
直接支払の集落協定には
たくさんの非農家が入っている
（一種の集落NPO？）
都市と農村、よそものと地元のものといったような社会的線引きはあまり追及しないほうがよい。。。
どれだけの人たちとの共感を得たか？
暮らしの中身　が大事
環境資産の質
と
環境資産の量
↑
（総量を見据えてどう解決していくのかという見通しが必要である）
地域条件によっては
里山については正しい放置管理が適用できるところもあり、密な管理がひつようなところもある（生態学的に）
制度はミニマムにしておいて、地域の条件にあわせて実施を考える
フィンランドの例：林野庁の縮小と現場（森林所有者団体）に権限をわたして経済原則にゆだねる
現場で決められるシステムにする
社会的に認知されやすい用語としての「環境資産」用語があるとよい
1973年「Small is beautiful」Schuhmacher著
「大量生産ではなく大衆による生産が大事」
大衆による生産においては誰もがもっている・・よく働く頭と器用な手・・大量生産は・・・多くの場合暴力的で・・・
30年前に既に提唱されているのだが？
「中間技術」